

2025/09/30

犯罪被害者団体ネットワーク ハートバンド

代表 井上保孝・井上郁美

中国・四国地方の犯罪被害者遺族の交流会『語りの夕べ@山口』開催報告

中国・四国地方の犯罪被害者遺族がつながり、交流を深めるため、一泊二日の交流会及び講演会を開催した。同地方では初の開催となり、「語りの夕べ」としては、2024年の猪苗代、2025年7月の山形蔵王での開催に続いて、三回目の開催となった。



初日第1部終了後の集合写真



山口県内で発生した犯罪の被害者による体験談

小谷真樹氏による講演

被害者・運営委員・ボランティア・講師の42名が参加した。初日は「交通事故被害者家族ネットワーク」業務執行理事・上田育生氏による講演と、交通犯罪遺族の小谷真樹氏による講演があったのちに、山口県で発生した犯罪の被害者遺族（2名）と「グリーフサポートやまぐち」代表・京井和子氏による鼎談という形での体験発表があった。



子供を伴っての参加、親子三代での参加が山口では多かあった

なお、本事業は赤い羽根福祉基金特別プログラムの「被害者やその家族等への支援活動助成」により実施した。

その後、参加者・ボランティアは懇親会で夕食を取りながらの自己紹介と歓談を行った。

二日目の午前中は、有志による市内ぶらぶら歩きを行い、被害者どうしの交流を深めた。



瑠璃光寺そばの香山で山口名物の瓦そばをいただく

■実施要領

1. 日時

2025年9月13日（土）～14日（日）

2. 場所

セントコア山口 〒753-0056 山口県山口市湯田温泉 3-2-7

3. 参加者

中四国・福岡から被害者遺族 26 名、運営委員・ボランティア 5 名、講師 3 名、司会 1 名、
専門家 1 名、支援者 7 名の計 42 名

4. プログラム

【9月13日(土)】

13:30～17:00 第1部 講演会

- 1) 開会のあいさつ ハートバンド代表 井上保孝
- 2) 上田育生 氏 ((一社) 交通事故被害者家族ネットワーク 業務執行理事) による講演「交通事故重度障害者への生活支援」
- 3) 小谷真樹 氏 (交通犯罪遺族) による講演
- 4) 山口県で発生した事件の被害者遺族による体験談の発表 遺族 2 名
ファシリテーター グリーフサポートやまぐち代表 京井和子 氏
- 5) アドバイザーからのコメント
ブリッジ法律事務所 主宰 内藤秀男 氏
- 6) ご案内 ハートバンドから懇親会、日曜日の市内ぶらぶら歩きについて、
「犯罪被害者週間全国大会 2025」のご案内
ハートバンド代表 井上郁美
- 7) 閉会の言葉 京井和子 氏
- 8) 集合写真

18:30～20:30 第2部 懇親会 46 人参加 (記者も含む)

21:00～22:30 二次会 (任意参加) 約 20 人参加 (記者も含む)

【9月14日(日)】

9:00～12:00 第3部 交流アクティビティ 市内ぶらぶら歩き

中原中也記念館、足湯、山口サビエル記念聖堂、香山公園・国宝瑠璃光寺
五重塔、物産館・お食事処長州苑 「香山」で昼食

13:00 「香山」で昼食後に解散

5. 参加者の声・開催の成果

以下、開催後に募った参加者アンケート結果より抽出する。「語りの夕べ」の目的である、「地域の犯罪被害者遺族がつながり、交流を深める」ことについて、参加された方々においては十分達成できたと言える。

また、他の地域での開催（東北の猪苗代、山形蔵王）と比べて、被害者遺族ではない支援者や記者の参加人数が多かった。とりわけ協力いただいた「グリーフサポートやまぐち」のメンバーがそれぞれの持てるスキルを活かして被害者が集う空間をより心地の良いよ

うに整えてくれたのが、参加者にはとても好評だった。また、小学生以下の子どもを連れてこられたり、親子三代で参加されたり、初めて夫や子供を被害者の集う交流会に連れてこられたという参加者もいた。親だけ、大人だけ、と対象者を決して限定せず、遠慮なく家族全員を連れてきて、皆がそれぞれ交流できるようにしていくことの大切さを実感した。

開催後のアンケートに回答した 95%を超える人が、来年も同様の企画があればぜひ都合をつけて参加したい、と楽しみにしていることが分かった。

講演会についての意見・感想:

- 講演会～懇親会と、とても楽しく貴重なひと時でした。また、素晴らしい演奏に心が和み、会場の雰囲気もとても良かったと思います。時間的に難しかったと思いますが、なかなか会う機会がなかったり、初対面の方々と…もっと沢山の方々とお話できる時間があればもっと良かったかと思います。初めての参加でしたが、参加させていただき感謝しています。ありがとうございました。
- 休憩が都度あって気持ちが切り替えられてよかった。山口のご遺族の対談、初めてはなして下さりありがとうございました。親を亡くした立場と祖母を亡くした立場からの話を聞いて良かったです。
- 殺人や傷害事件についてももっととりあげてほしい。交通事故との違いや落差を感じます。
- 多くの方とつながる機会をいただけたと思っております。本当に貴重な機会をありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。
- このような思いをする人が生まれないことが一番ではありますが、難しいことでもあると思いますので、その方々へのケアや今回のような交流会、講演会の存在がもっと知れ渡る必要があるなど改めて感じました。

懇親会についての意見・感想:

- 和やかな雰囲気、とても楽しませていただきました。もっとお話する時間があるとありがたかったです。
- 懇親会に参加して下さったすべての方が醸し出している温かい空気感がとても心地よかったです。子供も大人も、様々な立場で被害に遭った人やグリーフに寄り添う人、記者なども含めて共に感じるというのが具現化された場だったと思う。
- 裏方のご苦勞を感じました。
- これからもぜひ継続を期待します。
- 音楽は良かったが、音が大きく、周りと話す雰囲気がならなかった。

二日目の市内ぶらぶら歩きについての意見・感想:

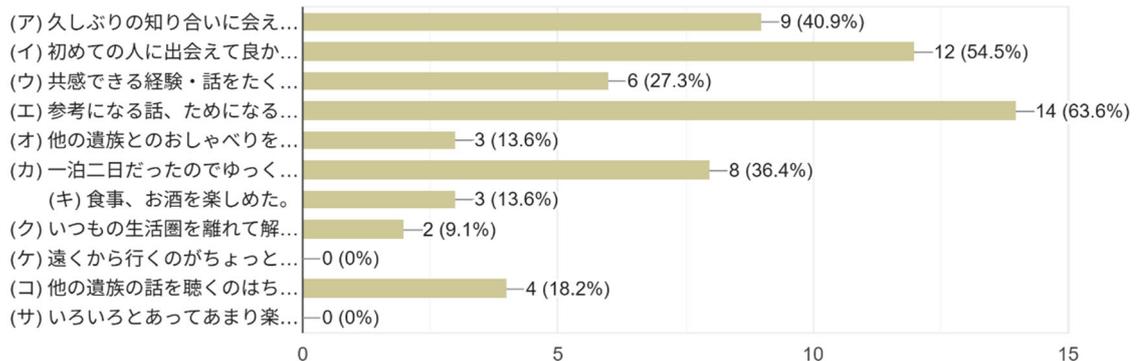
- なかなか自分では行かないところに一緒に行くことができ充実した時間を過ごしました。
- 足湯はやはり気持ちよかったです。瓦そばがおいしかった。瑠璃光寺五重塔修復中だったのがちょっと残念。ちょうど車の数と参加人数が合って、タクシーを使わなくてすん

だ。旅行をする機会がめったにない幼い子供が元気に走り回っているのを見て癒された。

- ご当地ならではの色々楽しんでとても良かった。
- 天気もなんとかもって、いい観光ができた。

全般的に参加した後の意見・感想:

10. 全般的に今回参加してどう思われましたか? ...当するものがあれば、3つまで選んでください。
22件の回答



「参考になる話、ためになる話をたくさん聴けた」が63.6%、次いで「初めての人に会えて良かった」(54.5%)、「久しぶりの知り合いに会えてよかった」(40.9%)という声が上位を占めた。

またその他自由記述には以下のようなコメントが寄せられた。

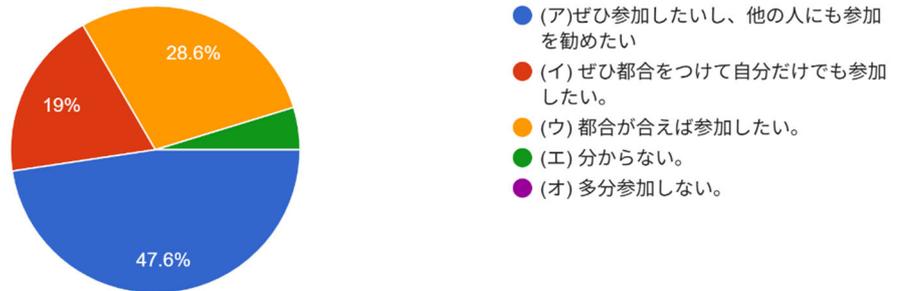
- 語りの夕べに始めて参加させていただきました。遺族となり13年足らずです。悲嘆に苦しみ模索しながら自分を騙しながら、京井和子さんを始め沢山の方々のおかげで、受け入れられない忘れる事のできない傷を抱えながらも何とか前向きに生きて行こうとしている今日です。久しぶりに公演を聞き、ご遺族とお話ができ、共感したり感動したり...また改めて生命の大切さを思い知る機会となり、存分に生きようと思えました。また、今回ご遺族のお子様(被害者の御兄弟、ご家族)にお会いし、お話を聞き...感動、感心しました。生命の大切さ、生きる意味?親御さんの背中を見ていろいろな想いをされてこられた事を想像し...お子様達が素直で温かく優しく、そして親御さんの事をととても大切に思われている事が伝わって来て、こちら思わず笑みがこぼれ、温かい気持ちにさせていただきました。ご家族、親子の絆に感動しました。
- 参加させていただき感謝しております。辛い毎日の中で気持ちを共有できる方々との交流は本当に救われました。また参加させてください。ありがとうございました。
- 新人記者の参加にご協力いただいたことで机上ではない研修の場にもなりました。ありがとうございました。
- 私にとりまして、大変貴重な経験となりました。参加者のみなさまが、それぞれ自分で自分を癒す力を持っておられるように感じました。それが、他の参加者の方々と尊重しあう力にもなっているように感じ、互いに癒しあえる関係性が生まれていたように感じました。共感という言葉よりも私にはしっくりくるように思っています。

- 報道の人たちの姿勢に感心した。ほぼ微動だにせずに静かに聞いていた。ベテランと若い記者とで来てもらうのが良いと思った。

次回以降の参加について:

11. また来年も同様の企画があれば、参加したいと思いますか？

21 件の回答



「ぜひ参加したいし、他の人にも参加を勧めたい」が 47.6% と約半分を占めた。次いで「ぜひ都合をつけて自分だけでも参加したい」が 19.0%、「都合が合えば参加したい」が 28.6% であった。三つを足し合わせると 95.2% と、来年以降の開催に対して高い関心があることが分かった。

ハートバンド主催犯罪被害者週間全国大会 2025(千葉県習志野市開催)への興味について:

12.

11月29日(土)、30日(日)に千葉県習志野市...のある方にはメールでご案内をご送付いたします。

20 件の回答



地元での「語りの夕べ」への関心や参加意欲は前問への回答の通りとても高いのに比べて、関東で開催される全国大会への関心は、「はい、ぜひ参加したいと思っています／すでに参加を予定しています。」が 20%、「興味があります。前向きに検討したいと考えています。」が 25% と、二つを足しても 45% と限られている。様々な事情で、遠く関東で開催される全国大会への参加は難しい人が居る中で、「関心がある」と答えてくれた人々には継続して今後の開催を案内していくこととする。

6. 今回開催して見受けられた課題と次年度に向けての対策、留意点

以下、開催して参加者からの事後アンケートや運営委員より指摘のあった問題、課題と次年度以降の対策、留意点を記す。

No	今回開催して見受けられた問題、課題	次年度以降の対策、留意点
1	中・四国地方から広く参加を募ったが、一人も参加者のいない県が多かった（島根、広島、岡山、徳島、香川、高知）。	今回の開催の報道や口コミに期待する。被害者の背中を押して会場に連れてこられるのは、先に参加をした被害者や支援者である。 また、今回の開催報告を各県の被害者支援センターにも紹介する。来年以降も継続して案内を出す。
2	宿泊で抑えていた部屋タイプと申込者の希望に大きなずれがあった	7割シングル、2割ツイン、1割がその他大部屋の比率で良い。「他人に迷惑を掛けたくない」「不眠症のために頻繁に夜中に起きる」などで圧倒的にシングルの希望が多いことに留意する。
3	当日開催前の準備にややバタバタした。	午後1時から開場だとしても3時間前の午前10時から使用できるように予約しておく。見積もりもそのような条件とする。そうすることによって設営・準備・当日のトラブル対応にも対処できる。
4	会場の環境（室温・照明）の調整に手間取った。	初めての会場の際には、空調、調光、音響のコントロールの仕方を早めに聞いておく。
5	記者の数が予想以上に多く、用意した資料の部数がぎりぎりとなった。	事前参加申込者数 x1.2 倍ぐらいの部数を用意する。
No	特筆すべき点	次年度以降の対策、留意点
6	協力いただいた「グリーンサポートやまぐち」の多彩な人材により、会場の環境がとても豊かに、かつ温かみを帯びた。例を挙げると、 ・ 子どもの相手をしてくれる人 ・ 演台や受付に添えるフラワーアレンジメント ・ 開会前、休憩時間などの都度流れる音楽の演奏 ・ グラフィック・レコーディング	被害者どうしが出会い、つながるだけではなく、被害者に寄り添ってくれる志のある支援者たちと知り合い、共に温かい場を作り上げていく体験はとても有用である。被害者が失ってしまった社会や一般の人への信頼を回復することにもつながる。 とは言え、被害者に寄り添うことは誰にでも簡単にできるわけではない。被害者と支援者のバランスにも留意する必要がある。

	<p>(講演内容をリアルタイムで分かりやすく絵を交えながら模造紙に要約を書いていく。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カメラマン—講演会だけでなく懇親会や二日目のぶらぶら市内歩きも一部撮影してくれた。 	
--	--	--

7. 関連報道

テレビ

YAB 山口朝日放送 2025 年 9 月 14 日 「山口県内初開催 犯罪被害者遺族の交流会」

<https://www.youtube.com/watch?v=fsEK7Qtpncs>

YAB 山口朝日放送 2025 年 9 月 16 日 特集「苦しみや悩みを語り合う 犯罪被害者遺族の交流会」

https://www.youtube.com/watch?v=oRo_ngCoiCk

新聞

中國新聞 2025 年 9 月 13 日 「犯罪・事故被害者遺族、山口で思い語り合う 交流会に 40 人」 <https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/711632>

読売新聞 2025 年 9 月 14 日 「犯罪被害者の遺族ら交流 山口で 39 人参加体験談など語る」

高知新聞 2025 年 8 月 28 日 「犯罪被害者遺族の交流を 山口市で講演と懇親会来月 13 日、14 日」 <https://www.kochinews.co.jp/article/detail/901767>

中國新聞 2025 年 8 月 28 日 「犯罪・事故の被害者遺族の交流会 山口市で 9 月 13・14 日、中四国地方で初開催」 <https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/701742>

8. 参考資料

記録写真、テレビニュース記事、新聞記事、開催チラシ

以上

犯罪・事故の被害者遺族の交流会 山口市で9月13・14日、中四国地方で初開催

地域 [山口](#)

2025/8/27 (最終更新: 2025/8/28)

犯罪や事故で亡くなった被害者遺族の交流会が9月13、14の両日、山口市湯田温泉のセントコア山口である。犯罪被害者団体ネットワークハートバンド（東京都）が、中四国地方で初めて開催する。孤独に陥りがちな遺族がそれぞれの思いを打ち明け合い、つながりをつくる機会を設ける。



拡大する

13日は、無免許で運転する少年の車にはねられて登校中だった当時7歳の次女を亡くした京都府の男性や、交通事故被害者のサポート組織を設立した大阪府の男性たちが講演する。14日は、希望者が山口市内の観光スポットなどを巡る。

中四国地方に住む遺族を対象に参加者を募っている。交流会事務局の京井和子さん（60）は「同じような体験をしているのは自分だけではないと感じてもらい、周りの目を気にせず笑ったり泣いたり互いに語り合ったりしてもらいたい」と呼びかけている。

定員は35人程度。遺族の支援に携わる関係者や学生も参加できる。遺族の参加は無料で、そのほかの人は実費。9月5日までに、インターネット上の申請フォームが京井さんへの電話で申し込む。京井さん ☎090（7549）6127。（坂上晴香）

<関連記事>

[山口市の西京高校の文化祭で地元食材おにぎり販売 広島のお店とコラボし考案](#)[中村哲さんの活動を記録、山口と宇部でドキュメンタリー上映会](#)[山口市長選の立候補予定者説明会に1陣営、現職か](#)

お客様が今月お読みになった限定記事は1本です。
月内にはあと9本読むことができます。

[無制限にお読みいただけるコースへの申し込み・変更はこちら](#)

山口 12 版 2025年(令和7年)9月14日(日曜日) 山口新聞

犯罪被害者の遺族ら交流

山口で39人参加 体験談など語る

犯罪被害者の遺族らが交流する「語りの夕べ」が13日、山口市のセントコア山

口で開かれ、中国・四国地方を中心に39人が参加した。

犯罪被害者団体の全国ネットワーク「ハートバンド」(東京)が企画。地方の住者でも交流できる場を作ろうと、県内では初めての開催となった。

ハートバンドの井上保孝代表は「勇気を出して参加してくれた皆さんが、心地よく過ごせる居場所になればいい」とあいさつ。京都府亀岡市で2012年に起きた車の暴走事故で、次女の真緒さん(当時7歳)を亡くした小谷真樹さん(43)は「『行ってきます』といった娘が、たった2時間の間でどうしてこんなことになったのか、涙ながらに当時の様子などを語る小谷さん

の様子を語った。

また、13年に周南市金峰で起きた5人殺害・放火事件で母親を亡くした娘(51)ら2人も登壇し、「母も、犯人の死刑確定前に亡くなってしまう父も、あの事件さえなければ心残りなく元気だったのかな、と考える」と胸の内を語った。

参加者同士による懇談の場も設けられ、互いの境遇などを語り合った。

中国高校野球県予選 49

秋季中国地区高校野球大会の県予選を兼ねた県スポーツ大会高校野球競技(硬式)地区予選が13日に開幕し、宇部市のユーピーアー



岩国 柳井

熊野町1-10
Fax 933-1103
uri.com
21-3020
31-4343
21-1429
22-1365
22-1792
22-0128
24-6181

問い合わせは
4343-81

32-6370
42-9399
73-1588
62-5400

読売新聞山口版 2025年9月14日

「犯罪被害者の遺族ら交流 山口で39人参加 体験談など語る」

ニュース NEWS

[ホーム](#) > [ニュース](#) > [山口県内初開催 犯罪被害者遺族の交流会](#)

番組へのメッセージ・
プレゼント応募はこちら



山口県内初開催 犯罪被害者遺族の交流会

© 2025-09-14

山口県内初開催 犯罪被害者遺族の交流会



犯罪被害者の遺族たちが体験などを語りあう交流会が山口市で行われました。

交流会は犯罪被害者団体の全国ネットワーク「ハートバンド」が企画したものです。

県内では初開催で、中四国地方を中心に約40人が参加しました。

京都府亀岡市で起きた車の暴走事故の遺族は

13年たった今でも娘の姿を思い浮かべると語りました。

=暴走事故で当時7歳の次女を亡くした小谷真樹さん=

「目を閉じた時にですね、いつも目を開けたら真緒が前にいいひんかな？」

時間戻ってへんかなみたいなこと本気で考えてます。いい大人が本気で考えてしまいます」県内からは2013年に

周南市で起きた殺人事件の遺族が登壇しました。

UPDATE:2025-09-14



ページTOP

犯罪・事故の被害者遺族の交流会 山口市で9月13・14日、中四国地方で初開催

地域 [山口](#)

2025/8/27 (最終更新: 2025/8/28)

犯罪や事故で亡くなった被害者遺族の交流会が9月13、14の両日、山口市湯田温泉のセントコア山口である。犯罪被害者団体ネットワークハートバンド（東京都）が、中四国地方で初めて開催する。孤独に陥りがちな遺族がそれぞれの思いを打ち明け合い、つながりをつくる機会を設ける。



拡大する

13日は、無免許で運転する少年の車にはねられて登校中だった当時7歳の次女を亡くした京都府の男性や、交通事故被害者のサポート組織を設立した大阪府の男性たちが講演する。14日は、希望者が山口市内の観光スポットなどを巡る。

中四国地方に住む遺族を対象に参加者を募っている。交流会事務局の京井和子さん（60）は「同じような体験をしているのは自分だけではないと感じてもらい、周りの目を気にせず笑ったり泣いたり互いに語り合ったりしてもらいたい」と呼びかけている。

定員は35人程度。遺族の支援に携わる関係者や学生も参加できる。遺族の参加は無料で、そのほかの人は実費。9月5日までに、インターネット上の申請フォームが京井さんへの電話で申し込む。京井さん ☎090（7549）6127。（坂上晴香）

<関連記事>

[山口市の西京高校の文化祭で地元食材おにぎり販売 広島のお店とコラボし考案](#)[中村哲さんの活動を記録、山口と宇部でドキュメンタリー上映会](#)[山口市長選の立候補予定者説明会に1陣営、現職か](#)

お客様が今月お読みになった限定記事は1本です。
月内にはあと9本読むことができます。

[無制限にお読みいただけるコースへの申し込み・変更はこちら](#)

犯罪被害者遺族の交流を 山口市で講演と懇親会 来月13、14日

中四国の犯罪被害者につながりや交流を深めてもらおうと、犯罪被害者団体ネットワーク「ハートバンド」は9月13、14日、山口市のホテルで交流会「語りの夕べ@山口」を行う。

同団体の代表は、1999年に東名高速道路で飲酒運転の高知通運（高知市）のトラックに追突され、娘2人を亡くした井上保孝さん、郁美さん夫妻。昨年から交流会を実施しており、中四国での開催は初めて。初日は京都府亀岡市の集団登校事故で次女を亡くした小谷真樹さんが講演。夜の懇親会で交流を深める。

先着35人。参加対象は、ハートバンド参加団体の所属か、中四国各県の被害者支援センターが推薦する犯罪被害者遺族。宿泊費と懇親会費は無料で、交通費の一部も補助があるという。

井上さん夫妻は「同じような状況にある人の話を聞いたり、思い切り泣いたり笑ったりできる環境を提供できないかと考えた。高知の被害者にも勇気をもって一歩踏み出してほしい」と話している。

申し込みは6月10日まで、D&J (<https://forms.gle/AqrBJEbymJHUQEA>) かQRコードで。問い合わせは運営委員の京井和子さん（0900・7549・6127）へ。



高知新聞 2025 年 8 月 28 日

「犯罪被害者の交流を 山口市で講演と懇親会 来月 13、14 日」